

(様式4号)

まちづくりアドバイザー派遣結果報告書

令和7年7月28日

茨城まちづくりセンター
運営委員長 殿

報告者（主催者）下妻市自主研究グループ チャノミーティング

まちづくりアドバイザー派遣制度運営要項第6条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実施日時	令和7年7月23日（水）午後6時～午後7時30分
主催者の名称	下妻市自主研究グループ チャノミーティング
講演会等の名称	第36回ChanoMeeteing 特別企画 「いい話し合いの先に協働が待っている」 ～対話の文化を体得してまちの未来を拓く～
アドバイザー氏名	中本 正樹 氏
実施場所	会場名 下妻市役所
参加者数	29名（申込者30名・当日欠席1名）
講演内容（具体的に詳しく記入して下さい。） 【演題】「いい話し合いの先に協働が待っている」 ～対話の文化を体得してまちの未来を拓く～ 【内容】 ・EQを高めよう EQ（Emotional Intelligence Quotient）は、自分と相手の感情に目を向け、それをうまく調整することで問題解決やコミュニケーションに利用する能力であり、IQ（知能指数）と対比して「こころの知能指数」とも言われている。EQを伸ばすには、①相手の話を聴き、言語化する、②人の良いところを探す、③文化芸術作品に触れることがポイント。 ・ごきげんな自分になる ウェルビーイング＝ごきげんな状態からは、①やってみよう（常に学習・成長、自己実現）、②ありがとう（他者への感謝、多様なつながり）、③なんとかなる（前向きに挑戦、楽観的）、④ありのままに（他人と比べない、自分らしく生きよう）につながる。 ・囲いを外す＝越境 所属組織や専門領域の枠を超え、異なる環境で学ぶことが大切。 ・創造性は総移動距離に比例する 移動できない人は、①本を読む、②人の話を聴く。	

・ 替えがきかない人になる

自立・自律した公務員になろう。世界中の成功者や天才は、一流は10,000時間以上の練習量。何事も真剣に10,000時間やり遂げれば一流になれる。100人に1人の存在へ。

・ さらに稀少性を高める方法

交流（市民協働・広報）×思考（新規事業・改革）×貢献（部下育成・リーダー）の3分野の掛け算で100万人に1人の存在になる。

・ 公 共 私

公と私の間の共（コモンズ）が大事。共創＝行政も住民も企業もまちにマジになる仲間。共創領域で頑張る人同士が手を組みましょう。

・ いい話し合い2つのポイント

①対話の姿勢を身に着けよう、②対話と決断のプロセスを丁寧に
意見集約ではダメで、住民の脳が消費者モードになり、役所がやってくれない＝くれない族になってしまう。他人を尊重し、市民として社会に参加し、役割を果たすシチズンシップと、街への愛着＋当事者意識の醸成からシビックプライドを育む。

・ 自ら変化を創り出す

①リード ザ セルフ（自分自身をリードする）、②リード ザ ピープル（周りの人々をリードする）、③リード ザ ソサエティ（社会をリードする）＝変化を知り、変化に対応する。

・ ポータブルスキル3つの“こう”

将来に向けて、良い準備をするなら、「**思考**（考える力）」「**交流**（コミュニケーション）」「**貢献**（リーダーシップ）」を鍛える。

新しいことを始めるには、この3つの役割を持つ人材を集めることが重要。集まらない場合は、誰かが各役割を担うとうまくいく。思考だけの3人が集まりやすいが、それでは形になっていかない。

感想など

【参加者の感想・コメントから】

- ・ ウェルビーイング（＝ごきげんな状態）でいることの大切さが分かったので管理職として自分も仲間もその状態を目指していきたい。

人生の時間は限られておりお金よりも大切。公務員として働くことは手段であり目的としてはいけない。職場から与えられたもの（お金・だけで満足せず、それ以外の世界を広く知り（＝越境し）自分の人生の舵をとり限られた命の時間を使おう。との中本さんの講話を聞いて改めて認識しました。

人生で1番幸福感が低いのは47.2才との研究結果を聞き、広い世界を認識すれば、あとは登り調子の人生になるかもしれないと考えました。

- ・ 対話による公民のコミュニケーションは時間も労力もかかるが、これから経済や人口が縮小する時代を力を合わせて乗り越えるためには必須となることが分かりました。

行政が住民と対話をするときには互いの立場の違いを認識し、立場を対等とし、一緒に考えることが大切であり、対話を円滑に進める為にはファシリテーションスキルを身に着けることも重要となる。

住民と行政で対話をする際には意見集約と勝手に切り上げてはいけない。住民が消費者モードとなって、役所が意見を聞く気がなくやってくれないとなってしまう、後々文句だらけになる。などの話が響きました。

住民と行政が頭と心をつないで知恵を出し合い、納得解を出して持続できる地域にしていきたい。まずは、現在担当の都市公園の使い方のルール作りなどに応用してみたいと思う。

- ・講師の方は元市職員ということでより説得力があり、とても分かりやすい内容でした。私は、普段は職員の研修担当をしていますが、オフサイトではなく職員研修の1つとして取り入れたいものでした。
講話の中であった、自分の囲いを外すことを重要とした越境については、ぜひ全職員に実施していただき人脈を築きあげて欲しい内容でした。多様化・複雑化する住民ニーズや地域課題に対応するには、役所の垣根を超え市民の話を丁寧に傾聴、共感を示して信頼関係を築き、公・共・私の連携の重要性と、その可能性について深く理解することができました。
- ・多様なバックグラウンドを持つもの同士が対話を通じて異なる視点を得て、新たなアイデアを生みだしていく対話は、今後のまちづくりにおいて重要だと改めて感じました。中本さんが「いい話し合いの先にいい協働がある」と言うように、総合計画策定の段階から、地域住民と行政が対話を重ねて策定すれば、いいまちづくりが可能なのではないかと思います。
- ・終身雇用制度の崩壊や新卒一括採用からキャリア採用が増加しているなど、企業の採用に変化がおきていたり、VUCAで先が読めない時代において、ポータブルスキルを身に付けることは、自分を守ることにつながるのだと思いました。

第36回ChanoMeeteing特別企画

「いい話し合いの先に協働が待っている」～対話の文化を体得してまちの未来を拓く～の様子





